



関連産業参入へ意識高め

盛岡 専門家ら5人が講演

いわて加速器関連産業研究会（会長・藤代博之岩手大工学部副学部長）は27日、盛岡市

内のホテルで、加速器関連産業参入セミナーを開いた。野村総合研究所の北村倫夫上席コンサルタントら5人が講演。国際リニアコライダー（ILC）の誘致実現を見据え、県内企業などの参加者は加速器関連産業への参入に向けて意識を高め

た。

同研究会の会員企業や大学、自治体などから約120人が参加。北村氏は「ILCの技術・機器等の現状と今後の開発課題」と題して講演した。

北村氏はILCの製作で必要となる超電導素子が残されている」と

加速器技術や検出技術、ソフトウェア技術などの主要技術ごとに現在課題となっている点を説明。「電子を加速する超電導加速空洞などの量産化に向けた技術開発や機器の性能向上については開発要素が残されている」と

強調した。

その上で「加速器関連産業は部品などを供給するサプライヤー側か、加速器を使用するユーザー側になるかの戦略を立てる必要がある」と助言した。

トークン・マシンナリ

の田中秀之元社長とマルイ鍍金工業の井田義明社長、先端加速器科学技術推進協議会（AAA）の松岡雅則事務局長と吉住浩之広報部会長も講演した。



北村倫夫

人事例

「超電導加速空洞の量産化などにはまだ開発要素は残っている」と語る野村総合研究所の北村倫夫上席コンサルタント